

横須賀・三浦支部研修会報告（平成29年12月8日開催）

平成29年12月8日横須賀市産業交流プラザ研修室にて、第5回横須賀三浦支部研修会が開催されました。今回は研修会後に会員交流会が行われることもあり、支部会員35名の参加がありました。

前半の研修会の講師は当支部ではお馴染みの公証人室井和弘先生です。「執行証書、確定日付」をテーマとしてお話をいただきました。通常の研修会では講師の先生のお話を聞き続けるところですが、そこは室井先生流。双方向、多方向の研修スタイルをとっていただきました。研修中は参加者からの積極的な質問に対し室井先生の実務経験をもとにした詳細な解説をいただいたり、参加者間での質問や応答が飛び交ったりと白熱した議論が展開されました。筆者の中で最も印象的だったのは室井先生の東京地検時代の経験談で、強制執行逃れのアドバイスをした法律専門職のお話でした。不良債権処理が社会問題となっていた時期のことだそうで、あるとき多額の債務を抱えた会社の顧問をしていた法律専門職が強制執行逃れのための方法をアドバイスしてしまったそうです。実はこれ、「強制執行免脱罪」という罪に当たる行為をアドバイスしていることになるそうです。室井先生曰く「親身になって相談に乗る人ほど深みにはまってしまうのがつらいところ」なのだそうです。難しい相談を受けたときでもお客様の力になりたいからといって焦らずに、一呼吸おいて冷静になってからアドバイスをするように心がけなくてはいけないとあらためてそう感じました。

さて、後半は全員交流会です。ここからは公証役場の事務員のお二人にも加わっていただきました。本日のハナは何といってもこの方、横須賀出身の真打、三笑亭小夢師匠です。切れの良い語り口とコロコロと変わる表情で、表現力豊かにこの日もお話をいただきました。早速ご披露いただきましたのはクイズ形式のなぞかけです。「〇〇とかけて××ととく」に続く、「そのころは～」の部分に参加者が答えるもので、これが大盛り上がり！！クイズに正解すると賞品がもらえることもあって答えがポンポン出ておりました。いやいや、実に楽しいですね、視聴者参加型大喜利。クイズに続いては「幾代餅」という小噺です。伝統的に語り継がれてきた小噺で、遊郭の女性に一目ぼれした町人の男性が一年間必死に働いてためたお金で女性に会いに行き、そのひたむきさに心打たれた女性と夫婦になって幸せに暮らすというストーリーです。一生懸命に頑張った人に「幸せな結末」が訪れるお話というのは聞いていて気持ちのいいものですね。

そんなこんなで盛沢山だった今回の研修会・会員交流会ですが、まとめの方を「なぞかけ風」にしてみたいと思います。「落語の小噺」とかけまして、「顧問先から難しい相談をされた際の行政書士の対応姿勢」とときます。そのころは、どちらも「オチつくことが大事」でしょう。

おあとがよろしいようで。

横須賀・三浦支部 小串滋彦